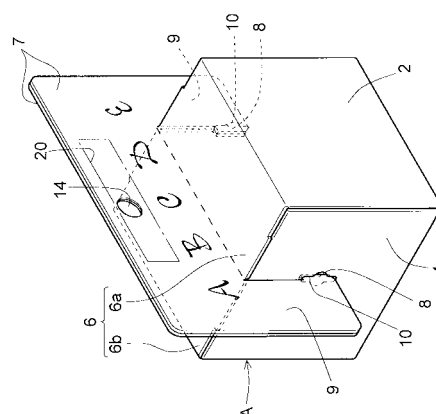




【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

底板（１）と、その底板（１）周囲前後左右の側板（２、３、４、５）と、その前後側板（２、３）の上縁に設けた蓋板（６）と、蓋板（６）から起立した吊り下げ板（７）と、を有し、

上記蓋板（６）はその中央で２分割された対の蓋片（６a、６b）からなり、その対の蓋片（６a、６b）の対向する縁に上記吊り下げ板（７、７）がそれぞれ起立して設けられ、その吊り下げ板（７、７）は上記左右側板（４、５）から突出して下方に延びる挟持片（９）を有し、その挟持片（９）下部の係止片（８）が前記左右側板（４、５）の係止孔（１０）に係止している包装箱。

10

【請求項 2】

請求項 1 に記載の包装箱であって、四角状底板（１）の４辺に折り目線（r）を介して前後側板（２、３）及び左右側板（４、５）を設けて立ち上げ、その前後側板（２、３）の上縁に折り目線（r）を介して蓋片（６a、６b）をそれぞれ設けて内側に折り曲げ、その両蓋片（６a、６b）の前縁に折り目線（r）を介して挟持片（９）及び係止片（８）を有する吊り下げ板（７、７）をそれぞれ設けて立ち上げ、その立ち上げに伴って前記挟持片（９）が前記左右側板（４、５）外側に至って前記係止片（８）を前記左右側板（４、５）の係止孔（１０）に係止した包装箱。

【請求項 3】

上記左側板（４）、底板（１）及び右側板（５）の両側全長に亘ってその幅中央の折り目線（１３）を形成し、上記対の蓋片（６a、６b）に設けた両吊り下げ板（７、７）が貼着された状態で、前記折り目線（１３）を介して前後側板（２、３）が重なる請求項 2 に記載の包装箱。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、保形が確実かつ斬新な包装箱に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

製品（商品）を包装して店頭に吊り下げ展示する包装箱は、通常、底板周囲に側板を設けるとともに、その側板の上縁に蓋板を設け、その蓋板から吊り下げ板を起立させた物が一般的であり、その吊り下げ板の吊り孔に棒状吊り具を通して展示する（特許文献 1 図 6 等参照）。

30

また、ケーキ等の菓子類の包装箱は、通常、底板周囲に側板を設けるとともに、その側板の上縁に蓋板を設け、その蓋板から手提げ板を起立させた物が一般的であり、その手提げ板の手提げ孔に指を通して持ち運ぶ（特許文献 2 図 1 等参照）。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 11 - 29138 号公報

40

【特許文献 2】特開 2000 - 255663 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記従来の吊り下げ用包装箱は、蓋板から吊り下げ板を単に立ち上げているだけであるため、その吊り下げ状態が不安定である。

上記手提げ用包装箱は、手提げ板を左右の側板から立ち上げた係止板に係止しており、その係止状態が不安定である。

【0005】

この発明は、以上の状況の下、吊り下げ用や手提げ用としても、その吊り下げ状態又は

50

手提げ状態が安定し、かつ斬新な形態の包装箱を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を達成するため、この発明は、吊り下げ用又は手提げ用の板をもって左右の側板を挟んで支持するようにしたのである。

左右の側板を挟めば、その左右の側板が安定するため、包装箱の形状も安定する。また、この挟んだ形状は包装箱としては、新規であって斬新である。

【0007】

この発明に係る包装箱の具体的な構成としては、底板と、その底板周囲前後左右の側板と、その前後側板の上縁に設けた蓋板と、蓋板から起立した吊り下げ板と、を有し、蓋板はその中央で2分割された対の蓋片からなり、その対の蓋片の対向する縁に吊り下げ板がそれぞれ起立して設けられ、その吊り下げ板は左右側板から突出して下方に延びる挟持片を有し、その挟持片下部の係止片が左右側板の係止孔に係止している構成を採用することができる。

この構成において、吊り下げ板は手提げ板となることは勿論である。このため、以下、「吊り下げ板」は「手提げ板」ともする。

【0008】

この構成の包装箱を1枚のブランクから構成するには、例えば、四角状底板の4辺に折り目線を介して前後側板及び左右側板を設けるとともに、その前後側板の上縁に折り目線を介して蓋片をそれぞれ設け、かつその両蓋片の前縁に折り目線を介して挟持片及び係止片を有する吊り下げ板をそれぞれ設けたブランクとし、底板から前後側板及び左右側板を折り目線を介して立ち上げ、その前後側板から折り目線を介して蓋片をそれぞれ内側に折り曲げるとともに、その両蓋片の前縁から折り目線を介して吊り下げ板をそれぞれ立ち上げ、その立ち上げに伴って挟持片を左右側板外側に至らせて係止片を左右側板の係止孔に係止する。

【0009】

この構成のブランクは、左側板、底板及び右側板の両側全長に亘ってその幅中央の折り目線を形成すれば、対の蓋片に設けた両吊り下げ板を貼着した状態で、折り目線を介して前後側板を重ねた態様（図11参照）にし得るため、嵩張ら無いものとなる。このため、搬送や収納に有利なものとなる。

【発明の効果】

【0010】

この発明は、以上のように構成したので、従来になかった斬新な包装箱となる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】この発明に係る包装箱の一実施形態の斜視図

【図2】同実施形態の切断正面図

【図3】同実施形態の切断側面図

【図4】同実施形態の展開図

【図5】同実施形態の組み立て説明用斜視図

【図6】同組み立て説明用斜視図

【図7】同組み立て説明用斜視図

【図8】同組み立て説明用斜視図

【図9】同組み立て説明用斜視図

【図10】同組み立て説明用斜視図

【図11】同実施形態の搬送・収納時の斜視図

【発明を実施するための形態】

【0012】

この発明に係る包装箱の実施形態を図1～図11に示し、この実施形態の包装箱Aは、底板1と、その底板1周囲の前後側板2、3及び左右側板4、5と、その側板に起伏可能

10

20

30

40

50

に設けた蓋板 6 と、蓋板 6 から起立した吊り下げ板 7 と、を有する。

上記蓋板 6 はその中央で 2 分割された対の蓋片 6 a、6 b からなり、その対の蓋片 6 a、6 b の対向する縁に吊り下げ板 7、7 がそれぞれ起立可能に設けられ、その吊り下げ板 7 は前後側板 2、3 から突出して下方に延びる挟持片 9 を有し、その挟持片 9 に左右側板 4、5 の係止孔 10 に係止する係止片 8 を設けている。

【0013】

この包装箱 A は、図 4 に示す、ボール紙からなるブランクからなり、正四角形の底板 1 の一辺に正四角形の前側板 2、後側板 3、左側板 4、右側板 5 が折り目線 r を介して接続（連設）されている。左右側板 4、5 の先端縁にはフラップ片 11 がそれぞれ折り目線 r を介して接続されている。前後側板 2、3 の先端縁には蓋板 6 をなす対の蓋片 6 a、6 b がそれぞれ折り目線 r を介して接続され、同左右縁にはフラップ片 12 がそれぞれ折り目線 r を介して接続されている。

10

【0014】

両蓋片 6 a、6 b の先端縁には吊り下げ板 7、7 が折り目線 r を介してそれぞれ連設され、この両吊り下げ板 7 は前後側板 2、3 の幅方向にそれぞれ突出している（延設されている）。その延設部分が挟持片 9 となり、その挟持片 9 下部に左右側板 4、5 の係止孔 10 に係止する係止片 8 を設けている。図中、r は直線状の折り目線、r' はミシン目状の折り目線である。

【0015】

このブランクからなるこの実施形態の包装箱 A は、図 5 に示すように、底板 1 に対して前側板 2 を立ち上げるとともに、一方の蓋片 6 a を内側に折り、一方の吊り下げ板 7 を上側に起立させる。同様に、図 6 に示すように、底板 1 に対して後側板 2 を立ち上げるとともに、他方の蓋片 6 b を内側に折り、他方の吊り下げ板 7 を上側に起立させて前記一方の吊り下げ板 7 に沿わせる。

20

【0016】

その後、図 7 から図 8 に示すように、フラップ片 12、12、12、12 を内側に折り曲げるとともに、重ねた吊り下げ板 7、7 を倒した状態として左右側板 4、5 を立ち上げて、底板 1、前後側板 2、3、左右側板 4、5 からなる立方体の箱体を構成する。このとき、フラップ片 11、11 は内側に折り曲げる。

【0017】

30

この後、図 9、図 10 に示すように、吊り下げ板 7 を起立させるとともに、その立ち上げに伴って挟持片 9 を左右側板 4、5 外面に至らせて係止片 8 を係止孔 10 に挿入係止する。吊り下げ板 7、7 同士、及び挟持片 9、9 同士は、両面テープや糊によって糊付けする（図 4 の a 部分）。

このように構成される包装箱 A は、化粧品、日用雑貨品、小物 P 等を収納したり、ケーキ等のお菓子 P を収納したりする。その収納は、図 7 に示す、左右側板 4、5 が開口された状態で行ったり、図 5 に示す一方の吊り下げ板 7 を上側に起立させる前、又は起立した後の状態で行ったりする。

【0018】

40

この包装箱 A の運搬や収納には、図 7 の吊り下げ板 7、7 及び挟持片 9、9 を貼着した状態で、図 11 に示すように、底板 1、左右側板 4、5 及び両フラップ片 11、11 の中央線上の折り目線 13（図 4 の一点鎖線）を介して折り畳む。この状態は扁平となって積み重ねても嵩張らない。この折り畳んだ状態から、前後側板 2、3 を離すように開けば、図 6、図 7 に示す態様になる。

【0019】

吊り下げ板 7 には、図 1 で示すように、「A・・・E」等の収納製品の名前、各種のロゴ、模様などを適宜に印刷（記載）する。そのロゴ等は各側板 2、3、4、5 等にも記載することができる。

店頭展示には、図 3 に示すように、吊り下げ板 7 の透孔（吊り孔）14 に吊り杆 B を通して行う。このとき、吊り下げ板 7 は包装箱 A の前後側板 2、3 の中心軸上にあって透孔

50

14 ほぼ重心軸上に位置するため、その吊り下げ状態は安定する。持ち運びには、吊り下げ板7を持って行く。また、図1一点鎖線で示すように、手提げ用孔20を形成して、この包装箱Aを手提げ用とすることもできる。このため、吊り下げ板7は手提げ板ともいうことができる。

このように、この包装箱Aは、吊り下げ用や手提げ用等として使用し得るため、その用途や収納（包装）商品Pの種類、大きさ等によって、箱形状は、側面視、正方形に限らず、長方形等としたり、その大きさも適宜に選択したりする。

【0020】

この発明に係る包装箱の材料は、ボール紙に限らず、他の板紙、プラスチックシート、又は紙とプラスチックの複合シート等の種々のものを採用し得る。

10

このように、今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。この発明の範囲は、特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【符号の説明】

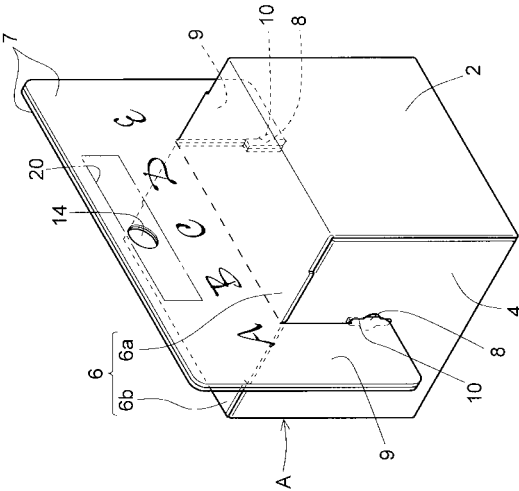
【0021】

A 包装箱
P 商品
B 吊り杆
a 糊代
1 底板
2 前側板
3 後側板
4 左側板
5 右側板
6 蓋板
6a、6b 蓋板の蓋片
7 吊り下げ板
8 係止片
9 挟持片
10 係止孔
11、12 フラップ片
r、r'、13 折り目線

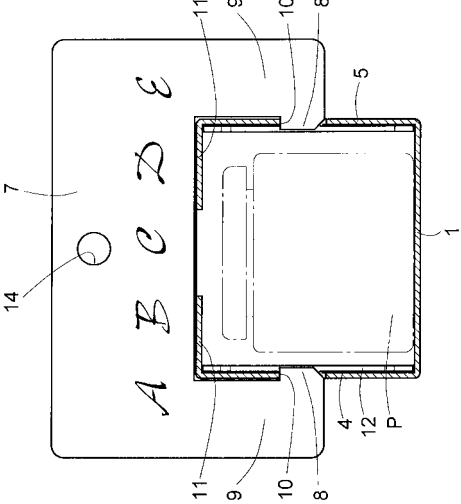
20

30

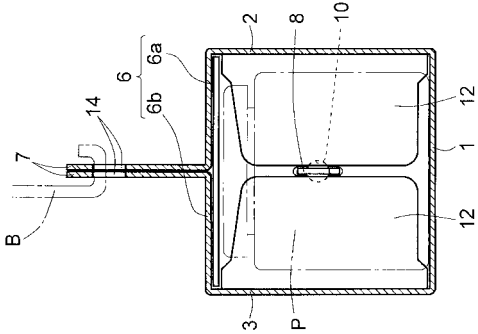
【図 1】



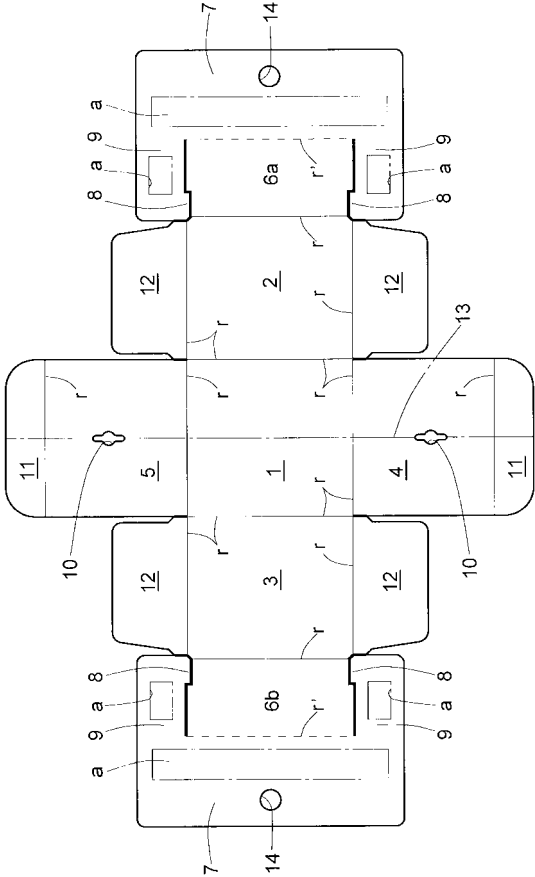
【図 2】



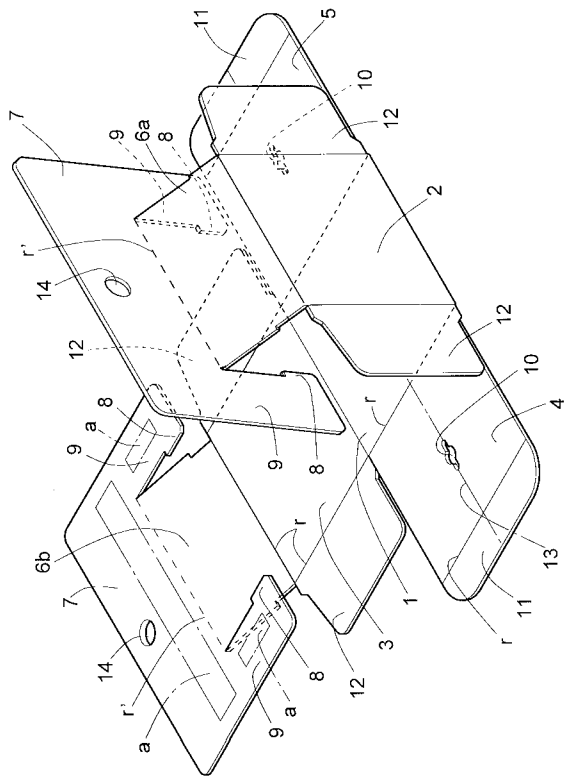
【図 3】



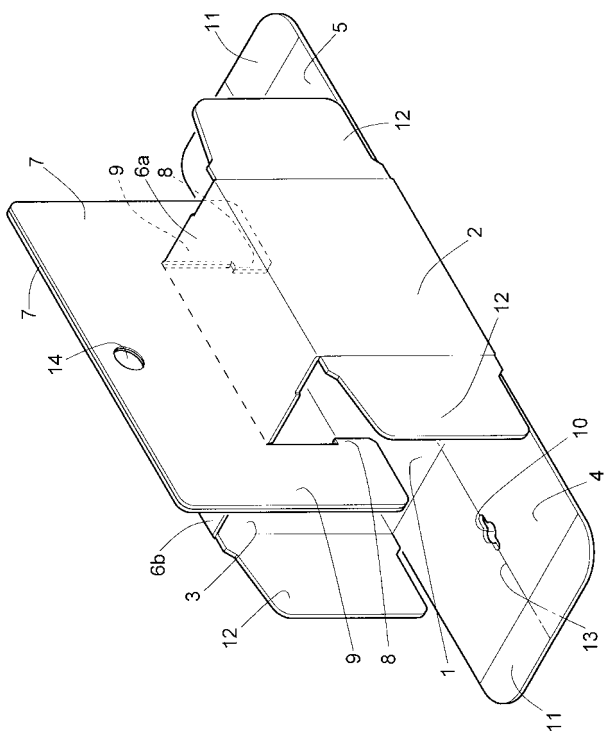
【図 4】



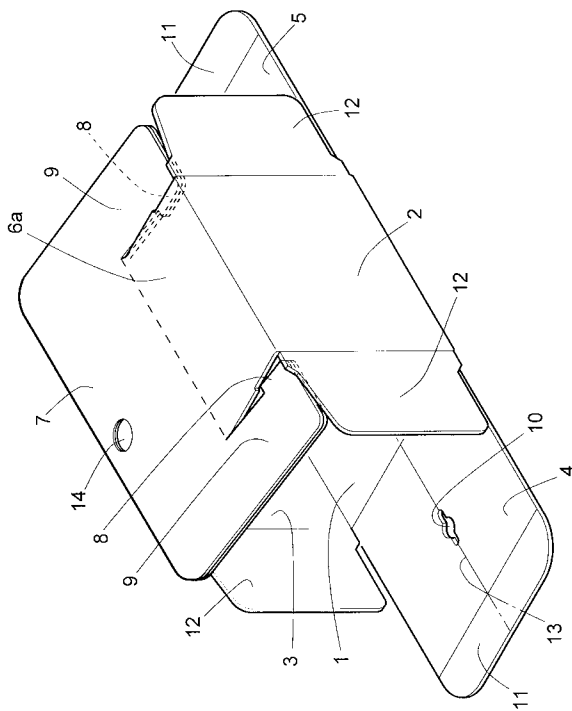
【図 5】



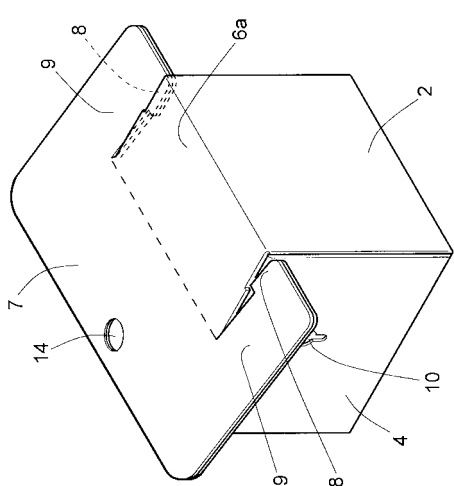
【図 6】



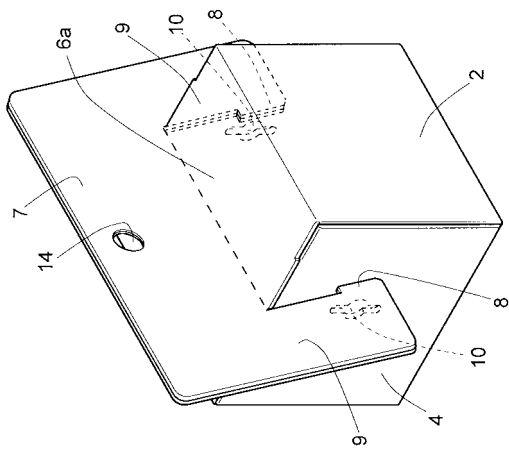
【図 7】



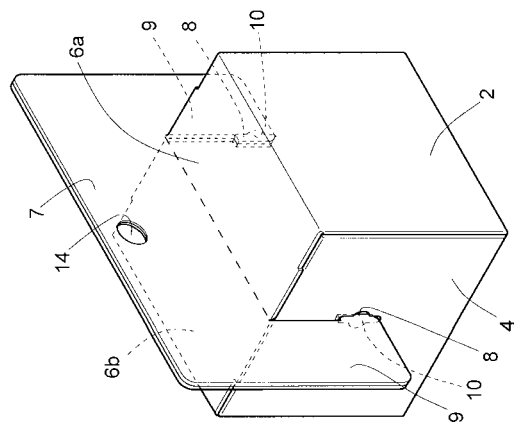
【図 8】



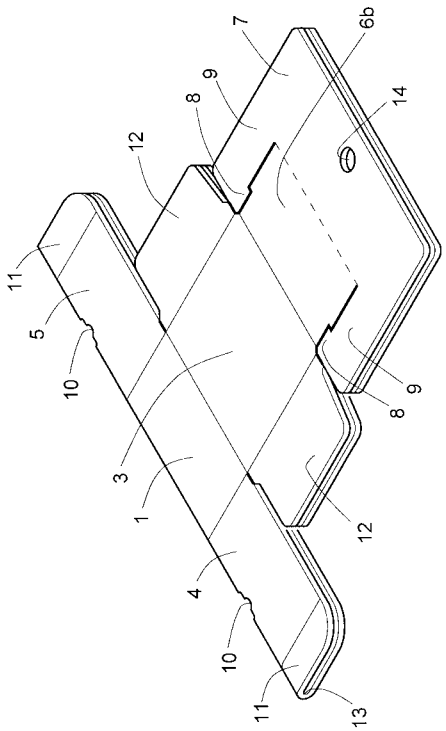
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(72)発明者 藤井 直樹

奈良県生駒市高山町 8 9 1 6 - 1 5 上六印刷株式会社内

(72)発明者 横山 郁

大阪市北区同心 1 丁目 5 番 7 - 2 0 8 号

F ターム(参考) 3E060 AA03 AB13 AB16 BA06 BA08 BB01 BC04 CA01 CA02 CA13
CA27 CG12 DA30 EA06